

京セラ株式会社 様

現場で作った棚卸アプリで巨大倉庫の在庫管理をスマート化

40万点を管理する倉庫業務を支える物流テックとして、全国の拠点へノウハウを展開

京セラ株式会社は素材、部品から、機器、サービスまで幅広い事業をグローバルに展開するエレクトロニクスメーカー。グループ内で関連する製品や事業をひとつのプロダクトラインとし、その開発、製造、販売、さらに物流にいたるまで幅広く事業を展開している。

同社の物流倉庫では、紙のリストを使って毎日在庫の棚卸を行っている。ある日、新社員から「棚卸用のアプリを作れないか」という意見を受け、Platioで棚卸アプリを1日かからずに作成、運用を開始した。作成されたアプリは使い勝手の良さから全国拠点への展開が始まっている。

課題・目的	選定ポイント	効果
<ul style="list-style-type: none"> ■ 紙の棚卸リストでは受け渡しのために巨大な倉庫内の移動が頻繁に必要で、在庫照合の目視チェックにも時間がかかる ■ 目視でのリストチェックでは人的ミスも発生し、倉庫在庫の精度向上に課題があった ■ 現場改善のアイデアがあっても、初期投資が必要な場合が多く、チャレンジに二の足を踏んでいた 	<ul style="list-style-type: none"> ■ サーバー構築やアプリ構築費など初期投資が不要でコストハードルが低く、業務改善にチャレンジしやすい ■ ITの知識に不慣れな現場でもアプリをすぐに作成・運用できるため、業務改善スピードの向上が見込めた ■ 丁寧なサポート体制と、真摯に機能要望に対応してくれる開発体制への信頼感 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アプリ上で在庫数を共有できるため、用紙の受け渡しの手間と移動の時間を削減 ■ 棚卸報告のデータ化により在庫照合を自動化。目視チェックによるミスがなくなり、在庫精度が向上 ■ 現場の改善提案をアプリに反映して運用できるため、業務改善に直結しやすく、社内での改善提案が活性化

※物流テック…物流業務をより効率的なものにするためにITなどの最新技術を活用する仕組み



日次で入出荷があった在庫の棚卸リストを一覧表示



棚卸数を入力して登録完了
データはクラウドで即座に共有される



棚卸アプリで報告している様子

ユーザーのひと言



京セラ株式会社
 物流事業部 事業推進部 システム推進課 高岡 慎哉 氏(中央)
 物流事業部 拠点物流部 東日本物流課 印西物流係 橋本 愛美 氏(左) 宮崎 優香 氏(右)

物流テックと聞くと、AIや最先端なロボットの導入を思いがちですが、そのためには莫大なコストと期間がかかります。しかし、物流現場では「今すぐ」改善できる仕組みを求めています。Platioは低コストかつ柔軟に現場業務のアプリ化を実現できるため、現場で簡単にはじめられる物流テックの第一歩として社内でも好評です。すでに資材部門でも入荷物の異常報告アプリのテスト運用が検討されており、各拠点での展開の早さに驚いています。

User Profile



所在地 : 京都府京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地
 会社概要 : 情報通信、モビリティ、環境・エネルギー、医療・ヘルスケアの4つを重点市場と位置づけ、素材、部品から、機器、サービスまで幅広い事業をグローバルに展開している。
 従業員数 : 75,505名(連結、2020年3月31日時点)
 導入時期 : 2019年9月
 U R L : <https://www.kyocera.co.jp/>